

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K02
授業科目名			授業形態		学科・コース
コミュニケーション活動Ⅱ			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	1	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
スポーツフェスティバルや遠足、特別講座、その他行事など、通常の教科の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。校外での集団行動も多く、チームワークなど教室の授業では得られない学習効果が期待できる。コミュニケーション能力を向上させ、より良い人間関係を構築できるようになる。					
授業の概要					
各種行事（始業式・終業式・遠足・スポーツフェスティバルや特別講座など）が科目として消化される。欠席しないことが大事である。					
成績評価の方法					
各行事への意欲で評価する。					学習意欲 100%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
春の遠足			8		
特別講座等			24		
防災訓練			4		
秋の遠足			8		
スポーツフェスティバル			4		
始業式・終業式など			12		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K03
授業科目名			授業形態		学科・コース
コミュニケーション活動Ⅲ			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	1	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
スポーツフェスティバルや遠足、特別講座、その他行事など、通常の教科の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。校外での集団行動も多く、チームワークなど教室の授業では得られない学習効果が期待できる。コミュニケーション能力を向上させ、より良い人間関係を構築できるようになる。					
授業の概要					
各種行事（始業式・終業式・遠足・スポーツフェスティバルや特別講座など）が科目として消化される。欠席しないことが大事である。					
成績評価の方法					
各行事への意欲で評価する。					学習意欲 100%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
春の遠足			8		
特別講座等			24		
防災訓練			4		
秋の遠足			8		
スポーツフェスティバル			4		
始業式・終業式など			12		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K05	
授業科目名			授業形態		学科・コース
キャリア講座 I			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	長崎 一郎/服部 衛紀
授業の目的・到達目標					
<p>「なぜ人は働くのか」通常、「経済的理由・社会的理由・個人的理由」と言われるが、どれに重きを置くかは、それぞれの価値観と置かれた環境に大きく影響される。この授業は、現実の社会、企業が求める人材、雇用情勢の把握と、その中での自分のあり方についての理解（自己分析）を深め、そこから進路選択につながるキャリア形成プランニングを体系化していく。さらに早い時期から就職活動への意識を高め、その実践的ノウハウを習得する。変化していく雇用環境に対応できる自立人間と自律人材になることを目標とし、その礎となる授業である。</p>					
授業の概要					
<p>キャリアデザインの考え方を理解し、社会に通用する人材になるための指標を持つ。時間の意識・挨拶等マナーの理解と実践・スピーチカ特勒ニング・ディスカッション等によりEQコミュニケーション力の強化も図る。就職環境・業種・職種・企業の理解促進。自己分析のワークシート（課題）と履歴書（課題）を作成し、今後の就職活動にも連動していく。</p>					
成績評価の方法					
<p>提出レポート（履歴書項目・面接対策関連・提出期限）を中心として、履歴書記入内容・自己分析ワークシート記入内容のレポート結果や取組み状況（出席等）に基づき、成績評価を行う。提出レポートは詳細に記入することを心掛けてください。</p>					<p>課題 90% 学習意欲 10%</p>
使用テキスト・教材					
就活のコツ/静岡新聞社、最新！					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1 就職できる力/ワーク：天職探索	2	8 職場訪問/ワーク：仕事探索、未来	2		
2 夢を描く/ワーク：10年後のありたい自分、学生生活経歴書	4	予想、未来スケジュール			
3 インターンシップ/ワーク：就職条件、インターンシップワーク	2	9 履歴書 /ワーク：履歴書「学校指定」履歴書	4		
4 業種・職種の理解/ワーク：成功体験	2	10 エントリーシート、自己PR動画	2		
5 何ができる何がしたい/ワーク：失敗体験	4	/ワーク：エントリーシート、自己PR			
6 自分を知る自己分析/ワーク：自己ワークシート	2	11 面接の受け方、集団・グループディスカッション、オンライン面接/ワーク：面接対策、面接質問	2		
7 求人票・求人情報/ワーク：他己ワークシート	2	※履歴書内容を含む課題レポート提出			
		12 添え状、電話のかけ方、筆記試験	2		
		/ワーク：封筒・添え状・お礼ワーク			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K06
授業科目名			授業形態		学科・コース
キャリア講座Ⅱ			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	2	寺尾 寿樹
授業の目的・到達目標					
<p>目的：職場や社会で役立つ人としての基礎力の養成と知識の確認のため（ヒューマンスキルの向上）</p> <p>目標：社会人として最低限押さえておきたい常識・マナー・礼儀作法・交渉における対人スキルなどを理解・確認し、就職活動や日常生活で、実践できるようになる。</p>					
授業の概要					
<p>インターンシップ（職場体験）や会社訪問・職場見学・企業説明会に臨む際の不安を軽減し、事前準備をしながら自己肯定感を向上し、あわてず・あせらず・諦めずに参加し、自己アピールできようになるための事前学習の機会として、座学およびプレゼンテーション（発表）により、伝達能力向上に励む。また、応募書類の内容等、採用担当者に興味を持たれ、選ばれるようになるために面接試験対策に力を入れ、ビジネス上で使用する言葉の選択や気配り・話す時、聞く時の態度や姿勢など、マナー、モラルの品格や質の向上により自己表現力に磨きをかけていく。</p>					
成績評価の方法					
<p>課題の作成およびプレゼンテーション（発表）、振り返り、提出物（成果物）の内容</p> <p>学習意欲：授業への取り組みの姿勢・態度・行動</p>					<p>課題 70%</p> <p>学習意欲 30%</p>
使用テキスト・教材					
<p>インターンシップをひとつひとつわかりやすく</p> <p>社会人のための基本のビジネスマナー</p>					
授業内容・授業計画					
			時間数	時間数	
1. オリエンテーション			2		
2. 自己分析・アセスメントツール等			4		
3. 自己PR			2		
4. 志望動機			2		
5. 電話対応・オンライン・文書マナー			2		
6. グループディスカッション			2		
7. 面接マナーと立ち振る舞い			2		
8. 模擬面接（個人）			8		
9. 模擬面接（グループ）			4		
10. まとめとフィードバック			2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K08
授業科目名			授業形態		学科・コース	
マナー講座II			演習		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	1	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
<p>インターンシップや就職活動で求められる高度なマナーを理解し、実践できるようになる。 自己分析を通じて、自分の強み・弱みを明確にし、自己PRや志望動機を的確に伝えられるようになる。 ビジネスの現場で求められるコミュニケーション能力を高め、好印象を与える立ち居振る舞いや言葉遣いを習得する。</p>						
授業の概要						
<p>より実践的なビジネスマナーや自己表現力を身につけることを目的としています。特にインターンシップや就職活動を見据え、自己分析・自己紹介文作成・模擬面接などを実践的にを行います。また、訪問マナーや電話対応、オンラインでのビジネスマナーにも対応し、現代のビジネスシーンで通用するスキルを育てます。</p>						
成績評価の方法						
課題 20%、学習意欲 80%					課題	20%
					学習意欲	80%
使用テキスト・教材						
その都度プリントや資料を配布する。						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1. オリエンテーション			2			
2. 自己分析			2			
3. 自己PR・志望動機の作成			2			
4. 電話対応・オンラインマナー			2			
5. ビジネス文書の書き方			2			
6. グループディスカッションの基礎			2			
7. グループディスカッションの実践			2			
8. 面接マナーと立ち振る舞い			2			
9. 模擬面接 (個人)			8			
10. 模擬面接 (グループ)			4			
11. まとめとフィードバック			2			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2026年度	
				科目コード	
				K-K12	
授業科目名			授業形態		学科・コース
ビジネス英語Ⅱ			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	アンドリュウ
授業の目的・到達目標					
<p>ビジネスの英会話やメールの読み書きなどをクリアするには、基礎的な英語の理解が第1歩です。本授業では、ビジネス英語の土台となる基本的な語彙や表現法を確認し、平易な言葉でのコミュニケーション方法を身につけていきます。</p> <p>丁寧な表現を覚え、日常やビジネスにおいて人との交流に必要な英語力の格調を高めていきます。</p>					
授業の概要					
<p>英語と日本語の違いは、根本的なところにネイティブと日本人の価値感の違いが隠れています。ビジネスコミュニケーションと日常英会話にも多くの共通点があります。</p> <p>そこを理解し、授業の前半では、英語の基本を確認します。</p> <p>授業の後半では、ロサンゼルスに暮らす大学生との海外文化に触れながら、リスニング、スピーキング、ライティングを中心に効果的に学びます。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 50%、レポート 50%				期末試験	50%
				レポート	50%
使用テキスト・教材					
We Love L.A! ISBN978-4-7647-4049-5					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション 基本の確認① 重要な基本を総復習し、毎回、確認テストを行ないます。		2	8. We Love L.A! ② テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
2. 基本の確認② 重要な基本の総復習、確認テスト		2	9. We Love L.A! ③ テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
3. 基本の確認③ 重要な基本の総復習、確認テスト		2	10. We Love L.A! ④ テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
4. 基本の確認④ 重要な基本の総復習、確認テスト		2	11. We Love L.A! ⑤ テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
5. 基本の確認⑤ 重要な基本の総復習、確認テスト		2	12. We Love L.A! ⑥ テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
6. まとめ 理解度テスト		2	13. We Love L.A! ⑦ テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
7. We Love L.A! ① テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2	14. We Love L.A! ⑧ テキストのリスニング、スピーキング、ライティング		2
		2	15. まとめ 理解度テスト		2
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				時間数は45分換算		年度	2026年度
						科目コード	K-K14
授業科目名			授業形態		学科・コース		
実用英語II			講義		デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	後期	必修	30	2	朝倉 由美子		
授業の目的・到達目標							
このコースの目標は、英語の語彙と文法を学び、自己紹介・日常会話・ディスカッション等できるようになることです。様々なシチュエーションで他の人と話すことができるようになることを目指します。							
授業の概要							
会話、文法、リーディング、ライティングの4要素をバランスのとれた構成で取り扱って、英語の基礎を固めます。							
成績評価の方法							
平常点 (授業への参加意欲・態度・確認テスト等) や課題など、総合して評価します。					平常点	60%	
					小テスト	20%	
					期末試験	20%	
使用テキスト・教材							
Robert Hickling、臼倉美里「We Love L.A! ～L.A.イングリッシュ・ライフ～」金星堂							
授業内容・授業計画							
			時間数				時間数
毎回テキストの1Unitを学習します。				第10回:A Beautiful View (現在完了)			2
第1回: Welcome to L.A. (be動詞)			2	第11回: Sunday Fun (比較)			2
第2回: I Love Fruit! (可算名詞/不計算名詞)			2	第12回: Seeing Stars (WH疑問文)			2
第3回: Campus Life (一般動詞<現在時制>)			2	第13回: Buying Food for a BBQ (動名詞/不定詞)			2
第4回: Lunchtime (代名詞)			2	第14回: Putting on a New Face (接続詞)			2
第5回: First Date (一般動詞<過去時制>)			2	第15回: Nice Surprises (受動態)			2
第6回: Where's Linda? (進行形)			2				
第7回: Andy's News (will / be going to)			2				
第8回: Shopping in Santa Monica (助動詞)			2				
第9回: Moving Day (前置詞)			2				
その他				関連科目			

シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2026年度	
				科目コード	
				K-K15	
授業科目名			授業形態		学科・コース
TOEIC 対策 I			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	2	関根 由美子
授業の目的・到達目標					
1月受験予定のTOEIC L&R テストにおいて、380点取得を目指します。					
授業の概要					
教科書を元に、各パートの概要・解き方・コツ・文法などを説明してから、テキスト内の問題を解いていきます。リスニングでは、ディクテーション・オーバーラッピング・シャドーウィング・暗唱を中心に行い、英語耳を作る事を目指します。リーディングでは、単語力をつけPart5・Part7の正解率を上げてゆきます。スラッシュリーディング・音読を行い、反復して読む事で読解力を強化していきます。毎日単語テストを行います。					
成績評価の方法					
TOEIC 試験直前に実施する過去問題の結果を、期末試験として評価します。学習期間内での課題の提出状況や、理解力も評価の1部とします。				期末試験	50%
				課題	30%
				学習意欲	20%
使用テキスト・教材					
「はじめてのTOEIC L&R テスト きほんのきほん」「Data Base TOEIC 単語&フレーズ」					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. Part1			6		
2. Part2			15		
3. Part3			6		
4. Part4			6		
5. Part5			12		
6. Part6			6		
7. Part7			9		
その他			関連科目		
			実用英語II		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
				科目コード	
				K-K16	
授業科目名			授業形態		学科・コース
TOEIC 対策 II			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	杉本 尚子/アンドリュー
授業の目的・到達目標					
6月受験予定の TOEIC L&R テストにおいて、500点取得を目指します。					
授業の概要					
教科書を元に、各パートの概要・解き方・コツ・文法などを説明してから、テキスト内の問題を解いていきます。リスニングでは、ディクテーション・オーバーラッピング・シャドーウィング・暗唱を中心に行い、英語耳を作る事を目指します。リーディングでは、単語力をつけPart5・Part7の正解率を上げてゆきます。スラッシュリーディング・音読を行い、反復して読む事で読解力を強化していきます。毎日単語テストを行います。					
成績評価の方法					
TOEIC 試験直前に実施する過去問題の結果を、期末試験として評価します。学習期間内での課題の提出状況や、理解力も評価の1部とします。				期末試験	50%
				課題	30%
				学習意欲	20%
使用テキスト・教材					
「Building TOEIC Skills」 「Data Base TOEIC 単語&フレーズ」					
授業内容・授業計画					
			時間数	時間数	
1. Part1			3		
2. Part2			7		
3. Part3			3		
4. Part4			3		
5. Part5			6		
6. Part6			3		
7. Part7			5		
8. 本試験形式の問題			30		
その他				関連科目	
				TOEIC 対策 I	

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度	
				科目コード	K-K21	
授業科目名			授業形態	学科・コース		
人間関係論			講義	デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	30	2	塩崎 雅基	
授業の目的・到達目標						
人間関係の社会心理学的知識を獲得するだけでなく、今を生きる学生が、よりよい人間関係を築き、社会に適応する力を身に付けていくことができる。自分や自分の人間関係を課題に沿って見つめ直すことができることを目標とします。						
授業の概要						
この科目では、私たちの日常生活の中で繰り返されている様々な人間関係を全般的に広く捉え、その実情を分析し、身近におきている人間関係の諸問題や今後の課題について具体的に学び考えて行こうとするものである。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%	
				レポート	30%	
使用テキスト・教材						
授業内で配布する。						
授業内容・授業計画						
			時間数		時間数	
1	人間関係の歴史		2	8	情報化社会における人間関係	2
2	組織と人間関係		2	9	マス・メディアと人間関係	2
3	ことばと人間関係		2	10	これからの人間関係	2
4	日本人社会の人間関係		2	11~15	まとめ	10
5	女性のライフ・サイクルと人間関係		2			
6	現代青少年の人間関係		2			
7	職場の人間関係		2			
その他			関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K23
授業科目名			授業形態		学科・コース
国際情報 (経済)			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	4	高田 博道
授業の目的・到達目標					
この授業の狙いは、国際社会において、日本がいまどのような位置にあって、いかなる役割を果たすべきかを認識し、日本のあり方について考えることです。そして、将来に亘って活躍する視野の広い人材を育成することを目標とします。					
授業の概要					
国際情勢は大きく変化し動き続けています。こうした世界の政治経済の動きをフォローしてその潮流を探り、現状を把握するとともに世界経済の基本的な枠組みや、国際的な相互依存関係を学びます。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
「国際政治経済学・入門」(第3版) 野林健・大芝亮・納屋政嗣・山田敦・長尾悟著 (有斐閣アルマ)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	世界大戦後の経済秩序と東西冷戦	6	8	地球温暖化への対応せめぎ合い	7
2	金融グローバル化の進展	6	9	金融危機・不況脱出、G20時代の幕	7
3	多面的に展開するグローバル化	6	開け		
4	地域統合 (リージョナリズム) 進展	7			
5	欧州連合 (EU) の成立と限界	7			
6	アジア太平洋経済協力会議 (APEC) の重要性	7			
7	地球環境問題への国際的取組	7			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K24
授業科目名			授業形態		学科・コース	
オフィススタディ			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	30	2	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
仕事をするための足場である「オフィス」での円滑な進め方への心構えと、実際的な方策を身につけることを目標とする。						
授業の概要						
仕事を効率良く効果的に進めるための組織のあり方、指揮命令系統と評価のあり方、組織を支える人間関係の構築のヒントを中心に学びます。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
授業内で配布する。						
授業内容・授業計画						
1～3 オフィスワークはいかに評価されるか			時間数			時間数
			6			
4～6 「仕事ができる人」というのは「コミュニケーション上手な人」			6			
7～9 出過ぎず、埋没せず、バランスをとる			6			
10～12 集団主義の中で自立精神を保ち続ける			6			
13～15 オフィス内部にオフィス外部の社会の空気を導入する			6			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
時間数は45分換算					科目コード	K-K25
授業科目名			授業形態		学科・コース	
世界史			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	60	4	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
世界史の主体的な学び方を身に着け、人間存在の複雑さや多様さを理解し、社会の差別や対立を乗り越えていく視点を探求できるようにする。						
授業の概要						
地球環境問題の深刻化、ロシアのウクライナ侵略やガザの紛争、第二次トランプ政権の成立など、現在の世界情勢は不安定要素に満ちている。このような時代を生き抜くうえで、「歴史に学ぶ」ことは私たちの大きな力になる。 極めて優れた歴史家、教師である筆者と一緒に、松本サリン事件、人種主義、不戦条約、強制追放などの生きた素材を軸に「世界史とは何か」を考える。						
成績評価の方法						
レポート合格後、科目修得試験で評価する。レポートの作成にあたっては、他人のレポートや教科書やWikipediaなどのインターネットサイトからの丸写し、コピー&ペースト、生成AIの使用は不正行為であり、そのようなレポートは一切採点しない。教科書を読んで理解し、問題の趣旨にしたがって情報を整理して自分の言葉でまとめること。					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
小川幸司『世界史とは何か―「歴史実践」のために―』(岩波書店、2023年)						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
第1講 私たちの誰もが世界史を実践している			12			
第2講 世界史の主体的な学び方			12			
第3講 近代化と私たち			12			
第4講 国際秩序の変化や大衆化と私たち			12			
第5講 グローバル化と私たち			12			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)				年度		
				2026 年度		
				科目コード		
				K-K30		
授業科目名			授業形態		学科・コース	
情報セキュリティ基礎			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	2	高木 健至	
授業の目的・到達目標						
<p>情報セキュリティに関する知識を習得し、インターネット社会において、日々生起するセキュリティに関する問題への対策を自ら検討・立案できるようになる。</p> <p>情報処理技術者試験の取得に必要な知識を習得し対象範囲の問題に対応できるようになる。</p>						
授業の概要						
情報セキュリティの基礎技術と、セキュリティに関する問題への対策方法及び、マネジメントについて学習する。						
成績評価の方法						
試験結果および学習意欲（授業態度、演習問題の提出内容）から総合評価する。					期末試験 80% 学習意欲 20%	
使用テキスト・教材						
「IT パスポート 超効率の教科書+よく出る問題集」（インプレス） 配布プリント						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1 情報資産と不正アクセス 資産と脅威、不正アクセス			2	4 情報セキュリティ マネジメントシステム		4
2 情報セキュリティの企業対策 情報セキュリティポリシー サイバーキルチェーン			2	ISMS 認証技術		
3 脅威の種類 物理的脅威 人的脅威 技術的脅威 攻撃手法			8	5 セキュリティ技術 ネットワークセキュリティ Wifi セキュリティ		6
				6 暗号化技術 共通鍵、公開鍵 デジタル署名		8
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度	
				科目コード	K-K31	
授業科目名			授業形態	学科・コース		
情報セキュリティ演習			講義	デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	60	2	塩崎 雅基	
授業の目的・到達目標						
情報セキュリティマネジメント試験の合格を目指す。						
授業の概要						
IT パスポートの知識を基礎として、情報セキュリティマネジメントの情報セキュリティテクノロジーを学ぶ。情報マネジメント演習で学んだ知識を併せて情報セキュリティマネジメント試験を合格することを目指す。						
成績評価の方法						
講義の節目に実施する小テストと期末試験を基にして成績を評価します。				小テスト	50%	
				期末試験	50%	
使用テキスト・教材						
情報セキュリティマネジメント 合格教本 技術評論社 情報セキュリティマネジメント パーフェクトラーニング 過去問題集 技術評論社						
授業内容・授業計画						
			時間数		時間数	
1	オリエンテーション		4	8	情報セキュリティ関連法規	4
2	情報セキュリティ基礎		4	9	ネットワークとデータベース	4
3	サイバー攻撃		4	10	ネットワーク	4
4	暗号		4	11	データベース	4
5	情報セキュリティ対策		4	12	科目B 対策演習	16
6	マルウェア		4			
7	不正アクセス対策		4			
その他			関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K32
授業科目名		授業形態		学科・コース		
情報マネジメント演習		講義		デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	60	2	中山 高伸	
授業の目的・到達目標						
情報セキュリティマネジメント試験の合格を目指す。						
授業の概要						
ITパスポートの知識を基礎として、情報セキュリティマネジメントの情報セキュリティテクノロジーを学ぶ。情報マネジメント演習で学んだ知識を併せて情報セキュリティマネジメント試験を合格することを目指す。						
成績評価の方法						
講義の節目に実施する小テストと期末試験を基にして成績を評価します。					小テスト	50%
					期末試験	50%
使用テキスト・教材						
情報セキュリティマネジメント 合格教本 技術評論社						
情報セキュリティマネジメント パーフェクトラーニング 過去問題集 技術評論社						
授業内容・授業計画						
		時間数			時間数	
1	情報セキュリティ管理	4	8	経営とセキュアシステム	4	
2	リスクマネジメント	4	9	システム戦略と構成要素	4	
3	情報セキュリティポリシ	4	10	セキュリティシステム戦略	4	
4	各種管理策	4	11	プロジェクトマネジメント	4	
5	セキュリティ評価	4	12	企業の活動と統治	4	
6	システム監査	4	13	科目B試験対策	12	
7	情報セキュリティ関連法規	4				
その他			関連科目			

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K33	
授業科目名			授業形態		学科・コース
IT戦略			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必須	30	2	塩崎 雅基
授業の目的・到達目標					
<p>国家資格「ITパスポート」試験に合格できるようになる。</p> <p>ストラジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つの領域から構成されているため、各分野での得点獲得率を高めることが重要なポイントになる。</p>					
授業の概要					
<p>情報通信技術 (ICT) の発展が企業の経営戦略や社会経済活動に与える影響を学び、IT 技術を活用した企業活動や戦略マネジメントに関する知識、テクノロジーの概要を習得する。講義と小テストを通じて、専門用語への理解と問題解決能力を養う。</p>					
成績評価の方法					
<p>期末試験：前期（7月）：当該授業の学習範囲に対して実施する</p> <p>小テスト：授業時に実施する小テストを評価する</p> <p>学習意欲：学習姿勢について、総合的に評価する</p>					<p>期末試験 50%</p> <p>小テスト 20%</p> <p>学習意欲 30%</p>
使用テキスト・教材					
ITパスポート 超効率の教科書＋よく出る問題集 (インプレス)					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
Chapter 1 企業活動 復習と問題演習			2	Chapter 7 システム開発～運用・保守プロセス	3
Chapter 2 マーケティング 復習と問題演習、デジタルマーケティング			2	システム開発プロセス, 情報デザイン	
Chapter 3 法律 知的財産法、個人情報保護法、情報セキュリティ関連法、公正な企業活動に関する法律、労働関連法			3	システム開発手法, システム開発のテスト工程	
Chapter 4 企業会計 復習と問題演習			2	運用・保守プロセス～廃棄プロセス	
Chapter 5 技術開発戦略・システム戦略			3	Chapter 8 ハードウェア	4
テクノロジーとビジネス, AI, IoT, DX, 金融とIT, 製造業とIT				テクノロジー系を学ぶ前の知識	
Chapter 6 システム企画～要件定義プロセス			3	コンピュータとは, CPU, 記憶装置	
マネジメント系を学ぶ前の知識				入力装置・出力装置	
企画プロセスとは, スケジュールを見積もる				Chapter 9 ソフトウェア	4
リスクマネジメント, システム監査とは				ソフトウェアとは, Webブラウザとメールソフト	
要件定義プロセス, 調達業務, 保守				主なソフトウェアの種類, ファイルとディレクトリ	
				Webサイトの構成ファイル	
				Chapter11 コンピュータとデジタル情報	4
				コンピュータと2進数, 2進数と16進数	
				IPアドレス, 基数変換の問題, 論理演算	
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K36
授業科目名			授業形態	学科・コース	
経済学			講義	デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
日常生活で使用する製品がどのような流れを経て我々の手元に届くのかを理解するための基礎力を養うことを目標とする。グローバルな社会における相互依存社会について学び知ることを狙いとする。					
授業の概要					
ハンバーガーや餃子、また自動車やテレビ等は世界の何処かで作られ、やがて我々の手元に届き、消費される。一つの国の中で全てのものを作りだすことは非効率的であり、もはや一国のみでは生きてはいけないのが現状である。製品の流れには様々な国際的な取り決め作用しており、その背景には論理的なメカニズムが存在している。このような一連の流れについて、主に貿易・投資という観点から学ぶ。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
浦田秀次郎『国際経済学入門』 日経文庫					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1	国際貿易のメカニズム		4		
2	貿易理論		4		
3	間接投資		4		
4	直接投資		4		
5	関税制度		4		
6	非関税制度		4		
7	経済統合		4		
8	まとめ		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K37
授業科目名			授業形態		学科・コース
会計学			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>この科目では、企業が公表する財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書）を理解し、有効に利用できる知識の修得を目標とします。</p> <p>この科目を履修すると、財務諸表を読むことで、企業の現状と課題を簡潔に把握する能力を身につけることができます。</p>					
授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務諸表の意味を理解してもらいます。 2. 財務諸表の作り方の復習。 3. 財務諸表の有効利用について勉強します。 					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
「ガイダンス企業会計入門」山浦・廣本（編） 白桃書房					
授業内容・授業計画					
[第1編]			時間数	時間数	
1 総論 ①②			12		
2 貸借対照表の読み方 ③④					
3 損益計算書の読み方 ⑤⑥					
[第2編]			8		
1 財務諸表の作り方の基礎 ⑦⑧					
2 演習による簿記技術の復習 ⑨⑩					
[第3編]			10		
1 キャッシュフロー計算書の作り方と利用法 ⑪⑫					
2 貸借対照表の利用法 ⑬⑭					
3 損益計算書の利用法 ⑮					
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K40
授業科目名			授業形態		学科・コース
簿記演習Ⅱ			講義・演習		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	90	3	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>工業簿記の基本理論と計算技法を習得する。 日商簿記2級試験における出題傾向を理解し、時間配分を意識した解答スキルを身につける。 本試験レベルの問題を繰り返し解くことで、確実に合格点を突破する力を養う。</p>					
授業の概要					
<p>前半15コマは、特に工業簿記の習得を重点的に行う。後半30コマでは、商業簿記・工業簿記双方の本試験形式の問題演習を通じて、実践的な解答力を強化する。過去問題や予想問題を使用し、実戦さながらの環境で確実な合格を目指す。</p>					
成績評価の方法					
学習意欲：40% 授業内課題：30% 期末テスト：30%				学習意欲	40%
				課題	30%
				期末試験	30%
使用テキスト・教材					
合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 TAC 出版					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			1		
2. 工業簿記の基礎、勘定連絡			1		
3. 材料費			2		
4. 労務費			2		
5. 経費			2		
6. 個別原価計算			4		
7. 部門別個別原価計算			4		
8. 総合原価計算			6		
9. 標準原価計算			4		
10. 直接原価計算			4		
11. 演習問題			60		
その他			関連科目		
			簿記演習Ⅰ		

シラバス (授業概要)			時間数は45分換算			年度	2026年度
						科目コード	K-K42
授業科目名			授業形態		学科・コース		
日本国憲法			講義		デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	前期	必修	30	2	堀 保彦		
授業の目的・到達目標							
<p>【講座のねらい】</p> <p>本講座は、日本国憲法について学習します。憲法は、人類が今日に至る長い歴史を通じて獲得してきた、自由主義と民主主義をベースとする国の仕組みを定める最重要な法です。一方で、憲法は、「理解しづらく、とっつきにくい」、「難解」な法という、マイナスのイメージが強い分野でもあります。本講座では、「とっつきにくい」憲法を、判例や身近な事例を題材にし、一步一步確実に論理を組み立てることで、理解を容易にします。また、サブテキストでは、それぞれの事例について、受講者各自がどう考えるかをベースに、議論しながら進めます。このように授業を進めながら、憲法に関する、一見難解に思われる、様々な問題を、皆さんと一緒に考えていきましょう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>身近に発生する可能性がある、憲法に関する問題について、自分で論理を組み立てながら、法律的なものの考え方（リーガルマインドといいます）を活用しながら、解決できるようになることを目指します。</p>							
授業の概要							
<p>サブテキストと教科書を使用します。サブテキストでは、教科書の具体的事例を題材として取り扱い、それに関する法律のルールやその背景にある考え方を学習します。その中で「具体的問題解決のために、どのような法律を用いて、それらをどのように適用すれば法律の趣旨にかなっているか」という観点から説明を行いながら、法律的思考（リーガルマインド）で物事を考える力を身につけます。</p>							
成績評価の方法							
①毎回の授業で実施する演習課題への取り組み（学習意欲）30%					期末試験	50%	
②日本国憲法の理解度（期末試験）50%					授業態度	30%	
③憲法問題に対する主体的考察力（プレゼンテーション）20%					プレゼン	20%	
の3項目を総合した点数で評価する。							
使用テキスト・教材							
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門』（第6版）（有斐閣）							
授業内容・授業計画							
			時間数				時間数
第1回：ガイダンス			2	第13回：裁判所			2
第2回：子どもの人権・外国人の権利			2	第14回：地方自治			2
第3回：プライバシー権・自己決定権			2	第15回：改憲・まとめ			2
第4回：法の下での平等			2				
第5回：信教の自由			2				
第6回：表現の自由			2				
第7回：営業の自由			2				
第8回：生存権・教育権			2				
第9回：死刑制度			2				
第10回：天皇制・平和主義			2				
第11回：国会			2				
第12回：内閣			2				
その他				関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K44
授業科目名			授業形態		学科・コース
民法・商法			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	堀 保彦
授業の目的・到達目標					
<p>【授業のねらい】</p> <p>本講座は、民法・商法（主として会社法）の概要を学習します。民法では、契約、物権（不動産）、債権（金融関係）、不法行為（事故）、親族（婚姻・親子関係）、相続、を、商法（会社法）では、会社の設立、機関（取締役会、株主総会など）、取締役の役割、ガバナンスの仕組み、を、それぞれ学習します。法律の初學者の皆さんが理解しやすいよう、現在関わりがあったり、将来発生しうる事例を用いながら、学習していきます。この講座を契機として、皆さんが法律の世界に興味を持てるようになることを目指します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>身近に発生する事象に関する法律を学習することで、それらの事象に関して、自分で内容や仕組みを理解し、法律的なものの考え方（リーガルマインドといいます）で、解釈できるようになることを目指します。本講座をきっかけとして、皆さんが、さらに、様々な法律に興味を持てるようになることを希望します。</p>					
授業の概要					
「具体的問題解決のために、どのような法律を用いて、それらをどのように適用すれば法律の趣旨にかなっているか」という観点から説明を行いながら、法律的思考（リーガルマインド）で物事を考える力を身につけます。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
『法の世界へ』（第9版）（有斐閣アルマ）					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	ガイダンス	2	9	親子・相続	2
2	契約1	2	10	会社法1	2
3	契約2	2	11	会社法2	2
4	不動産	2	12	会社法3	2
5	金融	2	13	会社法4	2
6	不法行為1	2	14	会社法5	2
7	不法行為2	2	15	まとめ	2
8	結婚・離婚	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
				科目コード	
				K-K46	
授業科目名			授業形態		学科・コース
会社法			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>【授業のねらい】</p> <p>本講座では、会社、主として、株式会社の仕組みを定めた会社法を学習する。会社は、現代の経済社会の中で、必要不可欠の存在として、大きな影響力を持っている。この会社という組織をめぐる法律を、身近に発生している具体的事例を題材にしながら、学生の皆さんが理解しやすいよう、分かりやすく授業を進めていく。会社は、皆さんが社会に出てから、いや、現在でも、好むと好まざるとに関わらず、何らかの接点がある。授業を通じて、「会社とは何か」ということを、皆さんが自分の言葉で、理解し、考え、説明できるようになるよう、学習していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>会社とは何か、会社の役割とは何か、会社は誰のもので誰のために存在しているのか、このような疑問に、学生の皆さんが、自身の言葉で、説明できるようになることが、本講座のゴールである。</p>					
授業の概要					
サブテキストと教科書を使用する。サブテキストでは、教科書の具体的事例を題材として取り扱い、それに関する法律のルールやその背景にある考え方を学習する。その中で「具体的問題解決のために、どのような法律を用いて、それらをどのように適用すれば法律の趣旨にかなっているか」という観点から説明を行いながら、法的思考（リーガルマインド）で物事を考える力を身につける。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
大塚英明『会社法のみちしるべ』第2版（有斐閣）					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1 ガイダンス			6		
2 会社の設立			6		
3 ガバナンス			6		
4 会社の機関			6		
5 株主の有限責任と閉鎖会社			6		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K47
授業科目名			授業形態		学科・コース
経営情報技術			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>本授業では、企業活動における情報技術の役割を学び、経営とITの関係を理解することを目的とする。情報システムの基本概念、データ活用の重要性、業務の効率化に関する基礎知識を身につけ、実際のビジネスにおいてITを活用できる素養を養う。特に、クラウドコンピューティングやデータベースなどの技術が経営にどのような影響を与えるのかを学ぶ。到達目標として、①情報技術が企業活動にどのように役立つか説明できる、②基本的な情報システムの仕組みを理解し、ビジネスの課題解決に活用できる、③データを活用した経営の意思決定の重要性を理解する、の3点を掲げる。</p>					
授業の概要					
<p>本授業では、ITパスポート試験の範囲を基に、経営情報技術の基本的な知識を体系的に学修する。教材として、試験対策用の問題集と用語集を使用する。各回の学修では、事前に教材の該当部分を確認し、講義資料を参照しながら、対応する問題を解くことで理解を深める。また、間違えた問題や理解が不十分な部分については、関連する参考書を参照することで補強する。学修は基本的に自己学修形式で行う。第1回で教材の使い方や進め方を確認し、第2回以降はストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の順に学修を進め、第15回でまとめを行う。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
ITパスポート試験対策の書籍					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
第1回 ガイダンス	2	第9回 コンピュータの基礎とハードウェア	2		
第2回 経営戦略とビジネスモデル	2	第10回 ソフトウェアとデータベース	2		
第3回 マーケティングと財務・会計	2	第11回 ネットワークとセキュリティ(基礎)	2		
第4回 企業活動と法務	2	第12回 ネットワークとセキュリティ(応用)	2		
第5回 システム戦略と情報システム戦略	2	第13回 情報セキュリティと暗号技術	2		
第6回 プロジェクトマネジメント	2	第14回 AIとIoT、最新技術	2		
第7回 サービスマネジメントとシステム監査	2	第15回 まとめ	2		
第8回 内部統制と品質管理	2				
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K48
授業科目名		授業形態		学科・コース	
経営管理論		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	高地 耕平
授業の目的・到達目標					
<p>社会の一員として、私たちは様々な組織に所属しています。多くの人が企業や会社といった組織に加わり、そこで活動しています。学び働くことは、ただ生きていくというわけではなく、より充実した生き方を追求するためでもあります。</p> <p>現代社会において、より良く生きていくために、経営管理がどのように役立つかを理解し、基本的な人間力を身につけることが大切です。この知識を得ることを目標とし、自身の成長と社会への貢献を考えながら学びを深めていくことが求められます。</p>					
授業の概要					
<p>企業や会社は実際の経営が行われる場であり、その運営には基本的な理論や仕組みが関与しています。経営や組織に対する理解を深め、経営目標を達成するための戦略や組織活動などを学んでいきます。</p>					
成績評価の方法					
平常点 50%、課題レポート 50%				平常点	50%
				レポート	50%
使用テキスト・教材					
授業では、主に配布されるレジュメを中心に、併せてパワーポイントなども利用します。					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション 会社① 会社とは		2	8. マネジメント		2
2. 会社② 会社の仕事と組織		2	9. 企業の社会的責任・環境経営		2
3. 会社③ 会社経営の仕組み		2	10. マーケティング		2
4. 会社④ 会社と人		2	11. イノベーション		2
5. 会社⑤ 会社の機関		2	12. 経営戦略・経営計画		2
6. 会社⑥ 株式と株主		2	13. 会社の数字 財務会計		2
7. 組織行動		2	14. 会社の数字 管理会計		2
			15. まとめ 理解度テスト		2
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K49
授業科目名			授業形態		学科・コース
監査論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	吉田 武
授業の目的・到達目標					
<p>企業が正常に機能するためには、その企業に関する情報が利害関係者に対して適切かつ信頼に 足るかたちで提供されなければなりません。</p> <p>情報を準備し提供する役割が会計であり、提供された情報 が実態を適切に表しているかどうかをチェックする役割が監査です。</p> <p>本講座では、監査が発達してきたこれまでの道筋を概観したうえで改めて監査の意味・意義を吟味し、そのような視点を維持しながら現今の監査制度の具体的内容について理解します。</p>					
授業の概要					
<p>監査は常に、不正や誤謬と対決するとう立場で発達してきました。ビジネスの形態が多様化する中で不正の在り方も変化し、そうした実態に対応して監査の在り方や方法は改善を重ねてきました。</p> <p>そのようなバックグラウンドに一定の認識を持つことによって、監査に対して何が求められているかを知ることができます。</p> <p>次に監査の具体的実務として、財務諸表監査と内部統制監査を学びます。</p> <p>後者は適正な財務諸表が 作成されるためのプロセスを確保することであり、結局は財務諸表につながります。</p> <p>したがって監査の果たす役割という意味でも、監査論で学ぶ内容においても、財務諸表監査がメインとなります。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
監査論テキスト【第9版】、山浦 久司 著、中央経済社					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
1	会計監査とその基本的役割	2	8	会計監査の進め方③	2
2	会計監査の現代的機能	2	9	会計監査の進め方④	2
3	金融商品取引法に基づく会計監査制度	2	10	会計監査と不正への対応	2
4	会社法に基づく会計監査制度	2	11	監査意見と監査報告書	2
5	職業監査と監査基準並びに職業倫理	2	12	監査意見の種類と諸問題	2
6	会計監査の進め方①	2	13	四半期レビュー	2
7	会計監査の進め方②	2	14	内部統制監査	2
			15	特別目的の財務諸表の監査	2
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K50	
授業科目名			授業形態		学科・コース
企業と広報			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>《授業のねらい》 広報コミュニケーションの基礎を学び、皆さんが企業広報を活用する知見を身につけること。</p> <p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報コミュニケーションの基礎を理解し、自らの言葉で説明できるようになること。 2. 企業で広報が必要とされる場面において、具体的な手続きを検討できるようになること。 					
授業の概要					
<p>高度な情報社会が到来した現代において、企業の広報は単なる情報発信の役割を超えて、企業に関わる様々なステークホルダー（利害関係者）とのコミュニケーション手段となり、その重要性は益々高まっている。本講義では、現代社会における企業広報の役割を学ぶ。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
「広報コミュニケーション基礎」(社会情報大学院大学編)					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1	デジタル時代の「広報パーソン」とは	2	12	危機管理広報（対応とリスク管理）	2
2	デジタル時代に問われる広報コミュニケーション ー「情報集約社会へ」ー	2	13	広報効果と効果測定	2
3	コーポレート・コミュニケーション	2	14	インターネット広報とオウンドメディアの活用	2
4	広報戦略の立案	2	15	メディア・リレーションズ	2
5	ICTの活用とコミュニケーションデザイン	2			
6	マーケティング・コミュニケーション (マーケティングPR)	2			
7	インターナル・コミュニケーション	2			
8	CSRと地域社会への広報活動	2			
9	成功するIR活動	2			
10	グローバル広報	2			
11	電子自治体・行政広報の要点と実務	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要) 時間数は45分換算					年度	2026年度
					科目コード	K-K51
授業科目名			授業形態		学科・コース	
企業とOJT			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	60	4	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
<<授業のねらい>> ・企業における人材育成について、応用的な知識と理論を学ぶこと。 <<到達目標>> 1. 人材育成の知識と理論に基づいて、人材育成の具体的な方法を説明できるようになること。 2. キャリア開発について、方針を立てることができるようになること。						
授業の概要						
企業は、「ヒト」「モノ」「カネ」の経営資源で成り立っています。そのため、「ヒト」つまり人材を如何に育てられるかは、企業活動の成否に大きく影響します。しかし、人材の育成は各自の経験に基づいて行われる場合が多く、こうした経験に基づく育成では、対象によっては成長を促せない場合があります。本講義は、企業における人材育成に関して、理論的な視点を含めた応用的な知識を学びます。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
授業で配布します。						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1 学習のメカニズム			7			
2 学習モデル			7			
3 動機づけの理論			7			
4 インストラクショナルデザイン			7			
5 学習環境のデザイン			8			
6 教育・研修の評価			8			
7 キャリア開発の考え方			8			
8 企業教育の政治力学			8			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K52
授業科目名			授業形態		学科・コース
企業コンサルティング			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	高地 耕平
授業の目的・到達目標					
<p>現在グローバル社会にふさわしい価値づくりが日本企業に求められています。企業は人材能力の育成に努めなければいけません、社員（社会人）一人ひとりもグローバル視点に立って自己責任で能力開発を進めていく必要があります。その基礎能力の一つとして経済や経営の現象を客観的かつ論理的に分析し、理論と経験を活用しながら、企業（自社）に実現可能な戦略とプロセスを提案するコンサルティング能力があります。</p> <p>この科目では企業の直面する経営課題を分析・解決し、組織の業績を改善、向上させていく方策について学びながら、企業コンサルティング能力を養うことを目的とし、基礎的なコンサルティングができるようになることが目標です。</p>					
授業の概要					
<p>企業コンサルティングに必要な経営戦略、組織、マーケティング、生産管理、店舗・販売管理、財務・会計、経営情報システム、経営法務等について基礎的なことを学び、経営課題の分析と解決を目指します。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	企業成長の条件	2	8	マーケティングⅠ	2
2	価値づくりに向けたイノベーション、マーケティング、人材能力	2	9	マーケティングⅡ	2
3	価値づくり能力と中小企業診断士	2	10	生産管理	2
4	中小企業の現状と中小企業政策	2	11	店舗・販売管理	2
5	経営戦略Ⅰ	2	12	財務・会計	2
6	経営戦略Ⅱ	2	13	経営情報システム	2
7	組織論	2	14	経営法務	2
			15	まとめ	2
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K53
授業科目名			授業形態		学科・コース
企業と情報法制			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	佐々木 史
授業の目的・到達目標					
<p>現在、情報化のなか、企業をとりまく環境も大きく変わり、新しいチャンスとともにこれまで直面したことのない法的問題が次々と生じている。高度情報化社会を生きのこり、さらに発展するための基礎知識を得るとともに、法制度の面から企業と情報の問題の認識を深めることがこの授業のねらいである。学生が情報に関わる現行制度や政策の基礎的知識を得、それらを現実を活用していく能力を得ることが到達目標である。</p>					
授業の概要					
<p>情報に関わる社会的トラブル（紛争、争い、もめごと、苦情）にどのようなものがあるか？それにたいしてどのような法制度が用意されているのか（作られようとしているのか）？その法制度にどのような問題点があるのか？—これらの具体的事例の検討を通じて、情報に関わる基本的権利、通信法、特許法、著作権法等の知的財産権、電子商取引ほかの情報関連の分野を学ぶ。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
「情報法」有斐閣					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1	情報に関わる基本的人権①		2	9 知的財産法②	2
2	情報に関わる基本的人権②		2	10 知的財産法③	2
3	プライバシーの権利の成立		2	11 電子商取引	2
4	新しいプライバシー権		2	12 コンピュータ犯罪	2
5	個人情報保護制度		2	13 準拠法	2
6	情報公開		2	14、15 全体のまとめ	4
7	通信と放送、通信事業		2		
8	知的財産法①		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K55
授業科目名			授業形態		学科・コース	
人材開発			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	後期	必修	60	4	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
本講義は、企業の経営資源のうち「ヒト」に関して、基本となる知識と理論を学ぶことを目的とします。人材開発の知識と理論に基づいて、現実の企業における人材の活用方法を適切に理解して説明できるようになることを目標とします。						
授業の概要						
企業は、「ヒト」「モノ」「カネ」（「情報」を加える場合もあります。）の経営資源で成り立っており、「ヒト」つまり人材は、企業の活動に大きく影響する要素の一つです。皆さんは、企業に就職して企業の一員となり、企業活動に関わることとなりますので、ご自身を含めた「ヒト」つまり人材の開発について、適切に理解し、活用できるようになることはとても大切です。本講義は、企業の経営資源のうち「ヒト」に関して、基本となる知識と理論を学ぶことを目的とします。						
成績評価の方法						
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
授業内で配布する。						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1	企業経営と人的資源管理		2	9	賃金制度	4
2	モチベーション・リーダーシップ・コミットメント		2	10	福利厚生制度	4
3	組織構造と職務内容		4	11	労使関係	4
4	人事等級制度		4	12	非正規労働者	4
5	雇用管理		4	13	女性労働者	4
6	キャリア開発		4	14	高年齢労働者	4
7	人事考課制度		4	15	海外派遣者	4
8	専門職制度		4	16	研究開発技術	4
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
時間数は45分換算					科目コード	K-K56
授業科目名			授業形態		学科・コース	
統計学			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	塩崎 雅基	
授業の目的・到達目標						
この科目は統計学の入門コースとし、統計学の基本的な概念や考え方に触れ、実際の場面で応用できるようになるのがこの科目の到達目標です。						
授業の概要						
自然科学、社会科学、人文科学の研究をするためにさまざまな科学的分析方法が用いられるが統計学もそれらの科学的分析方法の一つです。統計学は大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析方法です。統計学の方法は、学問的な研究だけでなく、私たちにとって身近な家計の管理、企業の経営、政府の行政等の実務にも大いに使われます。						
成績評価の方法						
レポート 50%、期末試験 30%、中間試験 20%					中間試験	20%
					期末試験	30%
					レポート	50%
使用テキスト・教材						
確率統計キャンパス・ゼミ マセマ出版社 9784866153537						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
1.	基礎事項順列と組み合わせ		2			
2.	標本データの記述,特性値,平均値,中央値,最頻値		2			
3.	度数分布表		2			
4.	分散,標準偏差		2			
5.	確率の基礎		2			
6.	確率分布,期待値,分散		2			
7.	主要な確率分布,二項分布,ポアソン分布		2			
8.	正規分布		2			
9.	二項分布の正規分布による近似		2			
10.	標本抽出,無作為抽出		2			
11.	中心極限定理		2			
12.	母平均の推定		2			
13.	母比率の推定		2			
14.	仮説の検定		2			
15.	統計的検定		2			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K60
授業科目名			授業形態		学科・コース
企画演習Ⅲ			演習		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	90	3	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
公募型のビジネスプランコンテストへの出品を通じて、実践的な事業構想力・検証力・発表力を身につける。					
授業の概要					
企業家・実務家メンターの助言を受けながら、オリジナルの事業プランを作成する。					
成績評価の方法					
単なる出席ではなく、授業中の意欲的な取り組みと発表、意見交換などの積極性が評価対象となる。					発表 50%
					課題 20%
					学習意欲 30%
使用テキスト・教材					
その都度資料を配布する。					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			2		
2. ビジネスプランの作成			30		
3. 中間発表			6		
4. ビジネスプランの作成			44		
5. 最終発表、振り返り			8		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			企画演習Ⅱ		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K63	
授業科目名			授業形態		学科・コース
データベース			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	中山 高伸
授業の目的・到達目標					
コンピュータシステムで幅広く利用されているデータベースについて、それらの機能的役割を中心に学ぶ。本授業を通して、データベースの仕組みを体系的に把握し、主にリレーショナルデータベースの機能やそれらに関する基礎理論について理解することを到達目標とする。					
授業の概要					
<p>データベースは、今やインターネットとともに現在のコンピュータ技術の骨格となり、日常利用している予約システムや物販・管理システムなどに広く利用されている。そのため、データベースの専門知識を養うことは非常に重要である。</p> <p>この科目では、データベースの概要や歴史・種類からはじめ、関係データベースとその管理システムの基礎知識、論理設計・物理設計の基本、関係データベース操作の国際標準言語である SQL (Structured Query Language)、複数一括処理のトランザクション、データから情報・知識・知恵へと導くデータウェアハウス、さらに、大規模な並列分散処理に向けた NOSQL (Not Only SQL) と総称される最新のデータベースの動向まで、データベースの世界の全体像を学ぶ。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 50%、レポート 50%				期末試験	50%
				レポート	50%
使用テキスト・教材					
随時、レジュメや資料を配布します。					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. データベースの誕生： データベースとは、データベースの種類と歴史		2	9. データベースの物理的側面(2)： 問合せ処理の最適化		2
2. リレーショナルモデル(1)： データモデル、リレーショナルモデル		2	10. トランザクション処理(1)： トランザクション管理、障害回復処理		2
3. リレーショナルモデル(2)： リレーショナル代数		2	11. トランザクション処理(2)： 分散データベース		2
4. リレーショナルデータベースの設計(1)： ER モデル、IDEF1X,UML		2	12. データウェアハウスと OLAP(1)： データウェアハウス、データウェアハウスのデータベース		2
5. リレーショナルデータベースの設計(2)：正規化		2	13. データウェアハウスと OLAP(2)： OLAP とデータマイニング		2
6. リレーショナルデータベース言語 SQL(1)： 問合せ、月号、更新処理の SQL 文		2	14. 新しいデータベース(1)： オブジェクト指向データベース、Web とデータベース		2
7. リレーショナルデータベース言語 SQL(2)： 表の作成、プログラムと SQL、データベースのセキュリティ		2	15. 新しいデータベース(2)： XML とデータベース		2
8. データベースの物理的側面(1)： ファイル構造とインデックス、逆正規化		2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K64
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マルチメディア		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
<p>文字・画像・映像・音楽などの様々なコンテンツを扱うマルチメディアは、コンピュータ・スマートフォンの普及により、一層身近な存在となっている。</p> <p>これらの本質を理解するために本授業の到達目標として以下を掲げる。</p> <p>1) マルチメディアの仕組みを理解できる</p> <p>2) 社会における利用のされ方を理解できる。</p>					
授業の概要					
<p>テキスト等を元に、マルチメディア情報を扱うコンピュータの原理・コンテンツの制作方法・インターネットの仕組みといった基本を習得し、それらがどのように社会に影響を与えているかについて学修する。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
入門マルチメディア[第二版] CG-ARTS					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	マルチメディアの特徴1	2	9	インターネットビジネス1	2
2	マルチメディアの特徴2	2	10	インターネットビジネス2	2
3	コンテンツ制作のためのメディア処理1	2	11	デジタルとネットワークの活用で変わるライフスタイル	2
4	コンテンツ制作のためのメディア処理2	2	12	社会に広がるマルチメディア1	2
5	マルチメディア機器	2	13	社会に広がるマルチメディア2	2
6	インターネット1	2	14	セキュリティと情報リテラシ1	2
7	インターネット2	2	15	セキュリティと情報リテラシ2	2
8	インターネットで提供されるサービス	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K65
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マルチメディア演習		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	1	高田 博道
授業の目的・到達目標					
<p>文字・画像・映像・音楽などの様々なコンテンツを扱うマルチメディアは、コンピュータ・スマートフォンの普及により、一層身近な存在となっている。</p> <p>これらの本質を理解するために本授業の到達目標として以下を掲げる。</p> <p>1) 各種コンテンツを制作できる。</p> <p>2) ホームページにまとめることができる。</p>					
授業の概要					
<p>デジタルコンテンツの基礎知識を理解する。実際に画像・動画・インタラクティブコンテンツ・音楽等のコンテンツを制作し、まとめたホームページを制作する。</p> <p>利用アプリケーション：Adobe CC(Photoshop, Illustrator, Premiere Pro 等),GarageBand 等</p>					
成績評価の方法					
演習の提出状況 50%、平常点 50%とし、総合して評価を行う。				課題提出	50%
				平常点	50%
使用テキスト・教材					
PDF等を授業内で配布する。					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. オリエンテーション	2	8. Photoshop 応用	2		
2. デジタルコンテンツの基礎知識	2	9. Photoshop を用いた画像編集演習	2		
3. デジタルカメラによる撮影及びポスター制作演習	2	10. 動画の基礎知識	2		
4. HTML 入門	2	11. Premiere 入門	2		
5. CSS、JavaScript 入門	2	12. CM 制作演習	2		
6. テンプレートを利用したホームページ制作演習	2	13. 音楽制作入門	2		
7. Photoshop 入門	2	14. インタラクティブメディア入門	2		
		15. マルチメディア制作演習	2		
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K67	
授業科目名			授業形態		学科・コース
ハードウェア基礎			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	4	高木 健至
授業の目的・到達目標					
一般的なコンピュータは電気で動いており、データは電気信号で表現され、電気的な変換や保存により演算（計算）が行われている。本授業ではコンピュータ・システムを適切に活用するために必要となる電気回路の解析方法について学修する。抵抗、コンデンサ、コイルなどの受動素子からなる線型回路の特性を解析できるようになることを到達目標とする。ここで学ぶ解析方法はロボットや化学反応プロセスなどの制御システム全般で利用されており、幅広い分野に応用できる。					
授業の概要					
テキストとサブテキストを用いて、直流回路解析の基礎、交流回路解析の基礎、ラプラス変換やフィルタの概念など、電気回路の基礎を学修する。この過程で、連立方程式、微積分、三角関数、指数関数、対数、複素数、ベクトル、行列といった、経済学や工学などで行われる解析全般で必要となる数学も学修する。					
成績評価の方法					
期末試験の成績 60%、レポート課題の成績 40%の配分で成績を評価する。					期末試験 60% レポート 40%
使用テキスト・教材					
情報通信システム改訂版【電気・電子系教科書シリーズ】					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1	キルヒホッフの法則		4	12 周期信号に対する回路の応答	4
2	抵抗		4	13 信号処理機能としての回路	4
3	電源		4	14 分布線路	4
4	回路方程式		4	15 オペアンプ	4
5	回路における諸定理		4		
6	コンデンサとインダクタンス		4		
7	基本回路の性質		4		
8	正弦波定常状態の解析		4		
9	ラプラス変換による回路解析		4		
10	回路の電力とエネルギー		4		
11	2端子対回路		4		
その他				関連科目	

シラバス (授業概要)				年度	
時間数は45分換算				2026年度	
				科目コード	
				K-K68	
授業科目名			授業形態		学科・コース
コンピュータネットワーク論			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	塩崎 雅基
授業の目的・到達目標					
<p>今日の情報化社会においては、インターネットによる通信が重要性を増している。この科目では、その基本となるコンピュータ間のデータ通信に関する基礎を学修する。</p> <p>現代の複雑・高度な通信技術を学修するために必要なデータ通信技術の基本について、ハードウェアとソフトウェアの両側面から理解することを目標とする。</p>					
授業の概要					
<p>今日の情報化社会においては、インターネットによる通信が重要性を増している。このようなコンピュータネットワークにおける通信は、プロトコルと呼ばれる通信規定により支えられている。</p> <p>本講義では、コンピュータネットワークの構造、通信方式、プロトコルの実際などについて LAN (ローカルエリアネットワーク) の構成を主体として学修する。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験 70% レポート 30%
使用テキスト・教材					
松下温、重野寛、屋代智之共著「コンピュータネットワーク」オーム社 (2000) 9784274132131					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. コンピュータネットワークとは			2	11. 代表的な LAN 4 (無線 LAN)	2
2. アーキテクチャの階層化はなぜ必要か			2	12. ホームネットワーク (IEEE1394)	2
3. コンピュータネットワークと通信網			2	13. これまでの復習	2
4. 通信プロトコル設計の基本的な考え方			2	14. レポートの作成(2)	2
5. レポートの作成(1)			2	15. まとめ	2
6. インターネット			2		
7. ローカルエリアネットワーク			2		
8. 代表的な LAN 1 (ポーリング方式とトークンパッシング方式)			2		
9. 代表的な LAN 2 (コンテンション方式)			2		
10. 代表的な LAN 3 (スイッチ技術による LAN)			2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K69
授業科目名			授業形態		学科・コース	
情報システム			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	2	塩崎 雅基	
授業の目的・到達目標						
現代社会では様々なものや人間の活動でコンピュータが利用されており、安全で豊かな社会を実現するためには情報技術を理解し、さらには駆使することが必須となっている。本授業は情報技術の諸学者向けの入門的内容となっており、コンピュータに関する広範なテーマを取り上げ、社会や経済の課題を解決するために情報技術がどのように活用されているか、実例を挙げて説明できるようになる。さらに、情報技術の最新動向について自分で調査し概要を説明できるようになる。						
授業の概要						
情報システムのしくみについて幅広く理解し、現代社会の様々な場面でどのように利用されているかを学ぶ。まず、文字や音声、画像といった情報がどのようにデジタル情報として表現され、保存、伝送されているのかを学ぶ。その後、情報システムを構成するハードウェアやソフトウェア、ネットワークについて学ぶ。さらに、情報システムがどのような手順で開発されているのかについても学ぶ。教科書の各章に「要点整理」と「練習問題」があるので、これらを解きながら学修を進めること。						
成績評価の方法						
レポートおよび期末試験の結果を総合的に評価する。					期末試験	70%
					レポート	30%
使用テキスト・教材						
武藤明則「ビジネスのためのコンピュータ教科書」同文館出版						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
第1回 第1章：問題解決と情報処理			5			
第2回 第2章：情報通信技術とコンピュータ			5			
第3回 第3章：デジタル情報			5			
第4回 第4章：数値・文字の表現			5			
第5回 第5章：画像・音の表現			5			
第6回 第6章：ハードウェアとソフトウェア			5			
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K71	
授業科目名			授業形態		学科・コース
情報社会と職業			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	4	菊地 泰則
授業の目的・到達目標					
東西冷戦構造の崩壊、情報技術の高度化、インターネットの普及などより、1990年代以降、経済のグローバル化が急速に進みました。その結果、企業の経営環境は劇的に変化し、わが国では、産業構造の変化、就業構造の変化、雇用の流動化などが起こりました。当科目では、このような経済・経営環境の大きな変化を踏まえ、情報社会における職業のあり方とキャリア形成、仕事の取り組み方、企業における教育と人材育成について学びます。また、情報社会における大きな課題である情報倫理、情報セキュリティ、危機管理についての知識習得を目標とします。					
授業の概要					
① 情報社会における職業のあり方 ② 情報社会における仕事の取り組み方 ③ 情報社会における企業教育と人材育成 ④ 情報社会における職業倫理と危機管理					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
『情報と職業』 近藤勲編著 丸善出版 ISBN978-4-621-02806-5					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 情報社会における職業のあり方 (1) 情報社会と職業 (2) 日本経済の変遷 (3) 高齢化社会と社会保障 (4) 高学歴社会 (5) 労働と余暇 第1回課題レポート		15	3. 情報社会における企業教育と人材育成 (1) 学習する組織とコンピテンシー学習 (2) 情報処理技術者とITスペシャリスト (3) 企業の人材育成 (4) 情報技術と公的資格 (5) 情報技術を活用した企業教育 (6) 情報産業における職制と職種 第3回課題レポート		15
2. 情報社会における仕事の取り組み方 (1) キャリア形成 (2) IT革命 (3) 企業組織の情報化 (4) 企業が求める人材像 (5) 情報技術を利用した協調/協働システム (6) 情報技術と消費行動の変化 第2回課題レポート		15	4. 情報社会における職業倫理と危機管理 (1) 情報社会における危機管理 (2) 企業・組織体のセキュリティ (3) 情報産業におけるビジネスモデルと倫理 (4) メディア融合と情報公開 (5) 知的財産の保護 第4回課題レポート		15
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K72
授業科目名		授業形態		学科・コース	
情報と施策		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	福原 美奈
授業の目的・到達目標					
多様化が進むメディアの現状と課題について、マスコミュニケーション、なかでもその軸といえる新聞を中心に、歴史的、国際的な視点も交えて学ぶことで、情報メディアが果たす社会的な役割を理解するとともに、ニュースを批判的に読むことで情報の真偽を見極めることができるようになる。					
授業の概要					
メディアの現場について理解を深め、社会人となるためにふさわしい常識を身に付ける。毎回、直近のニュースについて関心を持った記事1本を選んで、ニュースレポートとして提出する。書き方は授業で説明する。授業ではそれに基づいて冒頭に、受講生が最新のニュースについて気になったものを発表し、それについて意見交換することもある。また、新聞の社説を読み、記事の縮約をすることで、文章力を鍛える。小レポートを課すこともある。また、授業では新聞社の投書欄に投稿するために、投書を書くこともある。					
成績評価の方法					
期末試験（レポート）50%、平常点50%				期末試験	50%
				平常点	50%
使用テキスト・教材					
特になし。随時、レジュメや参考記事を配布します。					
授業内容・授業計画					
第1回 「オリエンテーション」	2	第11回 「国際ニュースと対外発信」	2	第12回 「米国ジャーナリズムの今」	2
第2回 「メディアとの接触の現状」	2	第13回 「SNSと政治」	2	第14回 「報道とファクトチェック」	2
第3回 「情報化社会の今」	2	第15回 まとめ 多様化するメディアと報道の今後について考える	2		
第4回 「表現の自由、言論の自由」	2				
第5回 「報道の自由とプライバシー」	2				
第6回 「新聞の使命と課題」	2				
第7回 「権力とメディア」	2				
第8回 「社説を読む」	2				
第9回 「世論とは何か」	2				
第10回 「投書を書く」	2				
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K73
授業科目名		授業形態		学科・コース	
メディアの活用		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	高田 博道
授業の目的・到達目標					
<p>メディア論の基礎的素養を学びメディアと人間、社会の関係を理解できるようになる。 現代のメディアが抱えるさまざまな問題をとらえ、それらに当事者意識を持って取り組むためのメディアリテラシーを得る。</p>					
授業の概要					
<p>現在、社会のあらゆる出来事はメディアに媒介されて生じ、世界のすべての国や地域はメディアを介して相互に関係するようになった。コミュニケーションを仲介するものやシステムであるメディアの在り方が、世界の在り方を決めるようになった。そのような世界で、我々はメディアについての新たな思想・理論を求めている。メディアを時間と空間に位置づける。</p>					
成績評価の方法					
最終課題提出 60%、レポート 40%				課題提出	60%
				レポート	40%
使用テキスト・教材					
特になし					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
1. メディアとは?		2	8. データベースと情報検索	2	
2. レポート・論文の書き方		2	9. インターネットによる情報活用・情報発信	2	
3. 高度情報通信社会とは		2	10. データベース作成演習	2	
4. 情報メディアの発達		2	11. 学校における情報共有	2	
5. 情報メディアの特性と選択		2	12. インターネット利用による光と影	2	
6. 視聴覚メディアの活用		2	13. 著作権とメディア	2	
7. 教育用コンテンツの活用		2	14. 情報発信演習	2	
			15. 課題提出	2	
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026年度	
				科目コード	
				K-K74	
授業科目名			授業形態		学科・コース
社会保障			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	佐々木 史
授業の目的・到達目標					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種法改正についてなぜ改正が必要となったのか、改正後に見込まれる課題について自身の言葉で説明できるようになる。 ・保険料拠出の社会保険システムと、税拠出の公的扶助の相違について説明できるようになる。 ・自由競争・能力主義を基盤とする資本主義経済社会において、なぜ救貧・防貧施策が正当化されるのか、その法的根拠を説明できるようになる。 ・社会保障制度の意義・役割・概念・体系・発達過程・課題について理解できるようになる。 ・各保険システムの体系、種類、保険者、被保険者、保険料、自己負担について要約できるようになる。 ・各福祉立法について、法体系の中で理解できるようになる。 ・社会保障の担い手、人権主体として、社会保障施策について説明をできるようになる。 					
授業の概要					
<p>講義形式ですが、知識をより深めるためにグループディスカッションを多く実施します。学生同士が活発に意見交換をすることで様々な価値観を学びます。</p> <p>また、授業中に複数回小テストを実施し理解度を確認します。実体問題のイメージを持つために動画資料も使用します。</p>					
成績評価の方法					
学習意欲 50%、期末試験 50%				学習意欲	50%
				期末試験	50%
使用テキスト・教材					
入門テキスト社会保障の基礎 著者 西村 淳					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 社会保障とはなにか	2	8. 雇用保険・労災保険			2
2. 人権とはなにか	2	9. 障害者の人権保障			2
3. 保険制度概括	2	10. 児童の人権保障			2
4. 生活保護制度	2	11. 貧困者に対する支援：能力主義と貧困			2
5. 年金保険① 国民基礎年金	2	12. 高齢者の地域で暮らす権利			2
6. 年金保険② 厚生年金	2	13. 朝日訴訟			2
7. 医療保険	2	14. 海外の社会保障と日本の社会保障			2
		15. まとめ			2
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-K76
授業科目名			授業形態		学科・コース
システム監査			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	松岡 林太郎
授業の目的・到達目標					
システム監査とは、企業などが業務で使用している情報処理システムについて、「障害が起こるリスク」「災害・不正アクセス対策」「企業経営への活用」について、信頼性・安全性・効率性を第3者の視点から客観的に評価します。本講義では、システム監査の実施手順について、各項目の内容と目的の理解を目指します。					
授業の概要					
システム監査の全般にわたる内容を解説し、実践します。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
監査論テキスト、山浦 久司 著、中央経済社					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. システム監査の意義		2	8. 監査判断と監査報告		2
2. システム監査とシステム監査基準の改訂の歴史		2	9. システムのライフサイクルからみた監査ポイント		2
3. IT 統制とシステム監査の概念		2	10. アプリケーションシステムの監査ポイント		2
4. システム監査の推進体制と手順		2	11. テーマ監査のポイント		2
5. システム監査におけるリスクアプローチ		2	12. 新しい IT とシステム監査		2
6. システム監査の監査手順と技法		2	13. 今後の課題		2
7. CATTs		2	14. まとめ		2
			15. 総合監査演習		2
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年度	
				2026 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				K-K77	
授業科目名			授業形態		学科・コース
資格試験対策 I			演習		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	90	3	中山 高伸
授業の目的・到達目標					
ハードウェア・情報処理システム・企業活動などの基本的な知識を学び、IT パスポート試験の合格を目指す。IT に関する基礎的な知識を獲得することで、ニュースや会話が理解できるようになる。					
授業の概要					
IT パスポート試験の範囲である 11 分野の基本的な用語や役割を総合的にまとめる。单元ごと基礎用語の理解度を図る小テストを実施するため家庭での自主学習も必要である。 過去問題を繰り返し解き、IT パスポート試験を取得する。					
成績評価の方法					
单元ごとに実施する小テストの結果、過去試験問題結果、学習意欲と授業態度を勘案して総合評価する。				小テスト	30%
				期末試験	50%
				学習意欲	20%
使用テキスト・教材					
「令和7年度超効率の教科書+よく出る問題集」(インプレス) 「かんたん合格! IT パスポート過去問題集」(インプレス)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1.企業活動		3	12.プログラムとアルゴリズム		3
2.マーケティング		3	13.コンピュータシステム		3
3.法律		3	14.情報セキュリティ		3
4.企業会計		3	15.データサイエンス		3
5.技術開発戦略・システム戦略		3	16.問題演習		45
6. システム企画～要件定義プロセス～		3			
7. システム開発～運用・保守プロセス～		3			
8.ハードウェア		3			
9.ソフトウェア		3			
10.ネットワーク		3			
11.コンピュータとデジタル情報		3			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K-K79
授業科目名			授業形態		学科・コース	
FP対策			講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	90	3	河内 嘉美	
授業の目的・到達目標						
ファイナンシャルプランニング技能検定3級に合格することを目標とする。						
授業の概要						
FP3級の出題範囲(ライフプラン、リスク管理、金融資産運用、タックス、不動産、相続)を体系的に学ぶ。過去問と予想問題で頻出論点を反復し、本試験合格に必要な得点力を養成する。						
成績評価の方法						
学習意欲：30% 授業内課題：20% 期末テスト：50%					学習意欲	30%
					課題	20%
					期末試験	50%
使用テキスト・教材						
みんなが欲しかった！FPの教科書 TAC出版						
授業内容・授業計画						
			時間数			時間数
			1. ライフプランニングと資金計画	8		
			2. リスクマネジメント	8		
			3. 金融資産運用	8		
			4. タックスプランニング	8		
			5. 不動産	8		
			6. 相続・事業承継	8		
			7. 演習問題	42		
その他				関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S90
授業科目名		授業形態		学科・コース	
特別の支援を必要とする子どもの理解		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱（身体虚弱を含む）、言語障害、自閉症・情緒障害、発達障害のある子どもの障害の種類、程度を理解できるようにする。 ・特別支援教育に関する法令や制度と教育課程の基本的事項を理解できるようにする。 ・個別の指導計画、特別支援教育コーディネーターの在り方、就学指導について理解できるようにする。 					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を学ぶ。 ・特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法を学ぶ。 ・障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難とその対応を学ぶ。 					
成績評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題および試験の結果により評価する。 ・レポートは、課題の主旨の把握、テキストの理解度、レポートの体裁などをみて評価する。レポートには講評を付記するので、参考にすること。 				期末試験	50%
				レポート	50%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）2018 ・文部科学省 特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）2018 他 					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	特別支援教育の現状	2	12	重複障害児の理解と指導	2
2	教育要領・学習指導要領の改訂のポイント	2	13	発達障害児の理解と指導	2
3	幼稚園等の特別支援教育	2	14	インクルーシブ教育の推進	2
4	小学校の特別支援教育	2	15	実践的指導力と教員に求められる資	2
5	特別支援学校の教育	2		質能力	
6	自立活動の指導	2			
7	視覚障害児の理解と指導	2			
8	聴覚障害児の理解と指導	2			
9	知的障害児の理解と指導	2			
10	肢体不自由の理解と指導	2			
11	病弱児の理解と指導	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S91
授業科目名			授業形態		学科・コース
教科教育法 (商業) I			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
商業科教諭を目指すために、教育基本法及び学習指導要領を理解するとともに、実践例の紹介やシラバス、学習指導案の作成演習を通して、この教科の本質を理解する。あわせて必要な知識、技能そして商業における人づくりを念頭に置いた意識を身につけることを目標とする。					
授業の概要					
高等学校の商業教育の目的、内容、指導方法等について理解するとともに、この教科の本質を理解する。この科目は、教職免許「高等学校教諭一種免許・商業」取得の必修科目である。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 総則編 (文部科学省、2019)					
高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 商業編 (文部科学省、2019)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	学校教育法と職業教育	2	10 各教科の内容とその指導法	会計分野	2
2	高等学校商業教育の現状	2		野	
3	商業教育の歴史的変遷	2	11 各教科の内容とその指導法	ビジネ	2
4	商業教育の意義と目標	2		ス情報分野	
5	商業教育の必要性	2	12 各教科の内容とその指導法	総合的	2
6	学習指導要領とその解説書	2		科目	
7	学習指導要領の法的根拠と主たる教材である教科書について	2	13 シラバスの解説と作成演習		2
8	各教科の内容とその指導法	2	14 学習指導計画と指導案の作成演習		2
	マーケティング分野		15 教員の身分を含む、職務と研修		2
9	各教科の内容とその指導法	2		マネジメント分野	
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				時間数は45分換算		年度	2026年度
						科目コード	K-S92
授業科目名			授業形態		学科・コース		
教科教育法 (商業) II			講義		デジタル経営学科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	選択	30	2	河内 嘉美		
授業の目的・到達目標							
商業科教育法 I の学習の上に、さらに学習指導要領を精読することにより、商業編の学習を通じて商業教育の教育内容を理解することを目標とする。							
授業の概要							
高等学校の学習指導要領を主要教材として学習する中で、商業教育の現状と課題を明らかにし、同時に商業教育の意義と重要性についても理解を深める。							
成績評価の方法							
期末試験 70%、レポート 30%					期末試験	70%	
					レポート	30%	
使用テキスト・教材							
高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 総則編 (文部科学省、2019)							
高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 商業編 (文部科学省、2019)							
授業内容・授業計画							
			時間数				時間数
1	学習指導要領改訂の歴史		2	10	学習指導要領解説 商業編 会計		2
2	商業諸科目群の基本的理念		2	(2)			
3	商業諸科目群学習指導の一般原則		2	11	学習指導要領解説 商業編 ビジネス情報 (1)		2
4	商業諸科目群学習指導の形態と方法		2				
5	学習指導要領解説 商業編 ビジネス基礎 (1)		2	12	学習指導要領解説 商業編 ビジネス情報 (2)		2
6	学習指導要領解説 商業編 マネジメント (1)		2	13	学習指導要領解説 商業編 総合的科目 (1)		2
7	学習指導要領解説 商業編 マーケティング (1)		2	14	学習指導要領解説 商業編 総合的科目 (2)		2
8	学習指導要領解説 商業編 マーケティング (2)		2	15	学習指導案の作成と模擬授業		2
9	学習指導要領解説 商業編 会計 (1)		2				
その他				関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S93
授業科目名		授業形態		学科・コース	
教育方法・技術論		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択	60	4	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
学校教育に求められている諸課題をふまえて、授業実践等の場面で適切な教育方法・技術を活用できることをねらいとする。子どもたちの個別適切な学び、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導法及び適切な評価のあり方について学び、それらを説明できるようになること。					
授業の概要					
学校における指導方法も歴史的な変遷を経て、「教師中心の学び」から「学習者中心の学び」へと変化している。知識基盤社会を生きるために必要な確かな学力を育てていくために、どのような指導法が求められているのかを学修していく。また、子どもたちの学習をどのように評価していくかということもあわせて検討する。					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
平沢 茂【四訂版】教育の方法と技術 (教職課程シリーズ)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1 教育方法の歴史的な変遷について			3 指導及び学習形態について		
(1) 教育方法・技術に関する用語について		4	(1) 教授組織		4
(2) 教育方法の歴史的な変遷1		4	(2) 学習組織		4
(3) 教育方法の歴史的な変遷2		4	4 学習評価について		
2 カリキュラム開発のあり方と授業における指導法について			(1) 教育における評価1		4
(1) カリキュラムの開発		4	(2) 教育における評価2		4
(2) 教育課程と学習指導要領		4	(3) 教育における評価3		4
(3) 授業における指導技術1		4	(4) まとめと補足		4
(4) 授業における指導技術2		4			
(5) 教育メディア		4			
(6) 教育メディアの活用		4			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S94
授業科目名			授業形態		学科・コース
生徒・進路指導法			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>学校教育における生徒指導・進路指導の位置づけについて知り、その歴史と理念について理解する。そして、生徒指導と進路指導（キャリア教育）の具体的な指導方法や実践的な指導展開についての基礎的な知見と力量を培うことがねらいとなります。</p> <p>到達目標 ①生徒指導、進路指導の歴史と理念について理解する ②生徒指導、進路指導の実践的展開の内容について理解する ③生徒指導、進路指導の教育課題と解釈について理解する</p>					
授業の概要					
<p>生徒指導・進路指導は、今日では学校教育活動全体を通して行うことになっている。この科目では、学校における生徒指導（生徒指導）と進路指導（キャリア教育）についての基礎的な理念と実践的な指導方法について理解することが目標となる。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
林尚示・伊藤秀樹 編著 教師のための教育学シリーズ10 「生徒指導・進路指導」理論と方法					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
1	生徒指導の意義と原理	2	12 「やりたいこと」と進路指導	2	
2	教育課程と生徒指導	2	13 キャリアプランについて考える	2	
3	児童生徒理解①（生徒指導の三機能）	2	14 現代の労働問題	2	
4	児童生徒理解②（学校での課題から）	2	15 まとめ	2	
5	学校における生徒指導体制	2			
6	児童生徒全体への生徒指導	2			
7	いじめ	2			
8	不登校	2			
9	校則・体罰・出席停止	2			
10	進路指導・キャリア教育の意義と原理	2			
11	進路指導・キャリア教育の役割	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S95
授業科目名			授業形態		学科・コース
特別活動の指導法			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>特別活動の歴史的変遷や現在の子供の状況を踏まえながら、学校教育における特別活動の教育的意義や具体的な実践の在り方について考えていく。</p> <p>到達目標：教職に就く人にとって、特別活動は人とのかかわりを育成する学級経営の要である。特別活動の教育的な意義を習得して、実践的指導力をもつ教員に必要な知識を得ることを目標とする。</p>					
授業の概要					
<p>特別活動は、児童生徒が学校における様々な構成の集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、人間関係形成、社会参画、自己実現ができる力の育成を目指すものである。</p> <p>本講義では、学習指導要領の変遷を追い、特別活動の目標・内容の変化とその背景を明らかにし、今日の子供の特徴から教師の子供達へのかかわり方や指導法を身に付けると共に、特別活動の実践方法や評価の在り方について検討していく。</p>					
成績評価の方法					
期末試験 70%、レポート 30%				期末試験	70%
				レポート	30%
使用テキスト・教材					
河村茂雄・編著 「特別活動の理論と実際」 図書文化 2018年					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	特別活動の教育的意義	2	10	集団活動のモデルと指導の在り方	2
2	特別活動の教育的特性	2	(2)		
3	特別活動の目標	2	11	生徒会活動の特質	2
4	特別活動の主な内容	2	12	部活動の特質	2
5	特別活動で教師に求められる力量	2	13	学校行事の特質	2
6	学級活動・ホームルーム活動の特質	2	14	特別活動の評価の在り方	2
7	特別活動の全体計画と指導計画	2	15	まとめ	2
8	合意形成に向けた話し合い活動及び意思決定につながる指導の在り方	2			
9	集団活動のモデルと指導の在り方(1)	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S96
授業科目名			授業形態		学科・コース
教育相談			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	選択	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
学校教育において教育相談を実施するために必要となる基礎的な知識と技術を身に付けることができる。					
授業の概要					
教育相談を実施するために必要となる基礎的な知識と技術について学ぶ。講義及び受講者同士の対話や演習を通して学ぶ授業のため、授業を聞くだけではなく、能動的な姿勢及び他者と関わることが強く求められる。教員を目指さない方にとっても役立つ授業であると考えているが、教員免許状を取得することを前提とした学修内容になっている。					
成績評価の方法					
①授業内試験 50% ②小テスト 20% ③平常点 30%				試験	50%
				小テスト	20%
				平常点	30%
使用テキスト・教材					
生徒指導提要 令和4年12月改定 文部科学省、ジアース教育新社					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1	オリエンテーション	2	14	教育相談的対話スキル	2
2	傾聴技法	2	15	まとめ	2
3	学校教育における教育相談	2			
4	アセスメント① 面接法	2			
5	アセスメント② 心理検査法	2			
6	教育相談に生かす諸理論と方法①	2			
7	教育相談に生かす諸理論と方法②	2			
8	教育相談に生かす諸理論と方法③	2			
9	カウンセリングマインド	2			
10	教育相談に生かす諸理論と方法④	2			
11	不登校の理解と対応	2			
12	いじめの理解と対応	2			
13	連携	2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S97
授業科目名			授業形態		学科・コース
総合的な学習の時間の指導法			講義		デジタル経営学科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	選択	30	2	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
<p>本科目では、「総合的な学習の時間」の教育課程に位置付けられたことの経緯や趣旨、求められる児童生徒の学力観、並びに学習指導要領の理解と指導、さらには、カリキュラムマネジメントと授業づくり、子ども理解と支援、評価のあり方など「主体的・対話的・深い学び」を実現する単元設計と学習環境整備、地域素材および教材に関する研究、家庭や地域の連携のあり方について、実践事例を参考に各自「総合的な学習の時間」の経験を積み指導方法を習得する。</p>					
授業の概要					
<p>①「総合的な学習の時間」の創設の経緯と趣旨、教育的効果について検討する。 ②現代的諸課題への対応や探究的な学習過程および主体的・対話的・深い学びを踏まえたカリキュラムマネジメントをもとに単元設計、授業づくりについて実践演習する。 ③子ども理解と支援、学習評価のあり方、学習環境の整備・活用(ICT)について、検討する。</p>					
成績評価の方法					
<p>レポート課題及び試験結果により総合的に評価する。(レポート50%、科目修得試験50%) 試験は、テキストやサブテキストの理解度の確認をします。</p>					<p>期末試験 50% レポート 50%</p>
使用テキスト・教材					
村川雅弘 他「総合的な学習の時間の指導法」日本文教出版					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
第1章 「総合的な学習の時間」創設の主旨と経緯		2	第8章 総合的な学習の時間の評価の手順と手立ての抽出		2
第2章 「総合的な学習の時間」に関する学習指導要領及び児童生徒の「学びに向かう力」の協議・検討		2	第9章 具体的な評価の手立ての抽出		2
第3～5章 探究的な学びを引き出す教師の指導支援(1)(2)(3)		6	第10章 学習環境整備や地域素材の発掘と家庭・地域の連携のあり方		2
第6章 年間指導計画の作成と教科との関連及び探究のカリキュラム・マネジメント		2	第11章 「総合的な学習の時間」におけるICTの活用と授業設計		2
第7章 学習指導案の書き方と学習評価ポイント、ワークシート等のコメントの書き方		2	第12～14章 「総合的な学習の時間」個別実践演習(1)(2)		6
			第15章 まとめと振り返り		2
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	K-S98
授業科目名		授業形態		学科・コース	
教育実習 I		講義		デジタル経営学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	選択	30	1	河内 嘉美
授業の目的・到達目標					
この科目は、教員免許状を取得するために必須の科目です。教育実習における心構えを理解すると共に、実習における事前の予行演習として各自における「模擬授業」を実施します。模擬授業においては事前に準備する指導案の作成と事後としての振り返りの時間を設け、良いクオリティの高い授業展開ができるようになることを目標とします。					
授業の概要					
教育実習を行うにあたって、教育の意義、教師の役割などを再度学び、確認する。その上で、教育実習の意義、教科の指導案・指導方法・教材研究・特別活動の指導など教育実習に必要な知識・技術が身についているかどうかを確認する。なお、教育実習 I を受講しなければ、教育実習に行くことはできません。					
成績評価の方法					
発表（模擬授業）・質疑応答への参加度（50%）、提出された指導案・レポートの内容（50%）				発表	50%
				レポート	50%
使用テキスト・教材					
授業内にて適宜、資料を提示します。					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
第1回 教育実習にむけての心構えを学ぶ①	2	第9回 指導案を書く①	2		
第2回 教育実習にむけての心構えを学ぶ②	2	第10回 指導案を書く②	2		
第3回 教師として必要な知識とは①	2	第11回 模擬授業を行う①	2		
第4回 教師として必要な知識とは②	2	第12回 模擬授業を行う②	2		
第5回 具体的な指導方法・技術①	2	第13回 実習に向けての課題解決①	2		
第6回 具体的な指導方法・技術②	2	第14回 実習に向けての課題解決②	2		
第7回 指導案の書き方①	2	第15回 まとめ	2		
第8回 指導案の書き方②	2				
その他		関連科目			